

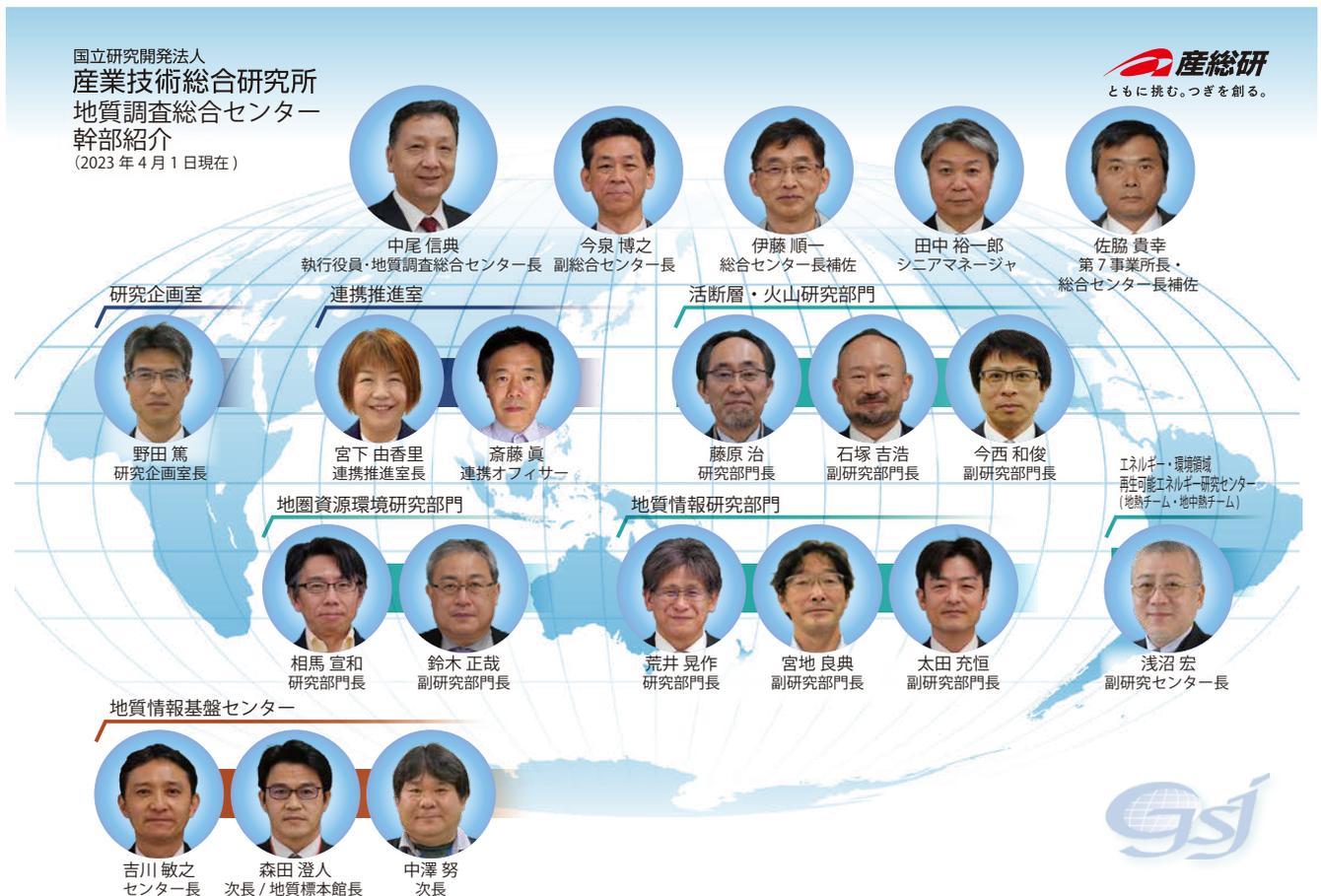
# 地質調査総合センターの 令和 5 (2023) 年度運営体制紹介とご挨拶

国立研究開発法人産業技術総合研究所 執行役員  
地質調査総合センター長  
中尾 信典

令和 5 (2023) 年度は、産総研第 5 期中長期計画 5 ケ年の 4 年目に当たります。産総研第 5 期の重点課題は、社会課題解決、産業競争力の強化、基盤整備 (知的基盤整備を含む) です。また、産総研は第 5 期以降、日本のなかに継続的にイノベーションを生み出す仕組み、「ナショナル・イノベーション・エコシステム」の中核となることを目指しています。この 4 月には、研究成果の社会実装に向けた取り組みを強化するため、株式会社 AIST Solutions (アイストソリューションズ) が設立されました。株式会社 AIST Solutions との協業により、産総研は産学官による新たな価値を創造する取り組みを加速し、研究成果の社会実装を通

じて、社会課題の解決と我が国の産業競争力強化に貢献していくこととしています。

地質調査総合センター (GSJ) はご承知のように、「地質の調査」に関する国内唯一のナショナルセンターです。基幹業務である地質情報の整備と利活用の促進を、地質情報整備にかかる国の知的基盤整備計画に沿って、今まで以上に推進していく所存です。また、GSJ も産総研の一員として、ナショナル・イノベーション・エコシステムの中核となるべく取り組んでいきます。この 2 つの取り組みは相反するものではありません。我々の研究成果である地質情報や技術等を社会実装し社会課題の解決に向けて取り組んで



2023 年度 GSJ 運営体制  
前副総合センター長の光畑裕司は、産総研企画本部 副本部長に就任しました。  
イノベーションコーディネータの高木哲一は、株式会社 AIST Solutions に転出しました。

いくことは、ナショナル・イノベーション・エコシステムの中核を目指すことと同じ方向性を持つミッションといえます。

地質情報の利活用の出口から考えると、社会課題の解決のうち「エネルギー・環境制約の問題解決」においては、洋上風力、CCSなどに、陸域のみならず、沿岸域や海域の地質情報を今後活用していくことが期待されます。そのためには、これまでの概念にとらわれることなく、新たな工夫や、チャレンジも必要です。また、地質情報の利活用促進に向けたチャレンジとして、地質情報に付加価値を付けていくことが考えられます。WEB上での地質情報提供が可能な現在、研究DX化もそれらを可能にする方法のひとつと期待します。例えば、東京都区部の地質地盤図で3次元可視化を実現したように、地質図幅類(2次元平面図)を準3次元的に可視化することや、地質図幅類に物性パラメータや必要な工学的情報を付加していくことなど、想像が広がります。地質情報を一元的に整備、管理しているGSJに

しかできないことに取り組んでいく、今が絶好のチャンスと捉えています。

新年度のGSJの運営体制を顔写真入りで示します。GSJが取り組む資源、環境、防災・減災への貢献という目的は人類社会の課題解決に向けたものです。GSJは、日々刻々と変化する時代の中で、創意工夫を重ね、地質の調査を通じて、我が国と世界の社会課題の解決に向けた研究を推進します。そして、質の高い研究成果と地質情報を社会に発信していきます。

今後とも皆様方からのご指導、ご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

---

NAKAO Shinsuke (2023) Greetings and introduction of the 2023 management system of the Geological Survey of Japan.

---

(受付：2023年5月9日)